

菊池が生んだ天才画家

—近代絵画への先取と挑戦—



大塚耕二

名作レプリカ展示



私は幼児頃より汽車を愛した。これは、私を知る上に重大なことである。汽車は私の詩であり、夢であった。私はいつも汽車の絵を描いた。汽車の絵を描きながら、自分の心の夢、あこがれ詩を謳った訳である。つまり私の絵は、私の歌であったこと、その自らなる関係が、斯く私を、絵画への途へ誘ったものであろう。

私の画家志望は中学の三年から四年頃漸く定まり、そのためにひそかに心を砕いた。それは自分の才能と家人への気兼ね、それに気恥ずかしさのため誰にも相談せず、いかにしてという何事につけても有りがちな青春時代の疑問故であった。 —軍隊日記より抜粋—

トリリート F80 県立美術館蔵

かくして、大塚耕二は昭和9年4月帝国美術学校に入学し、当時潮流した欧州新興美術絵画の多様な画派（野獣派、立体派、抽象派、超現実主義派など）にいち早く模索一途に挑戦した。その多様な表現の中で超現実主義（シュールレアリスム）絵画にひとつの光明を見出した作品「トリリート」は、独立展に出品し高い評価を受け画壇から一躍注目された。周りから将来の大器の画家と囑望されていたが、先の大戦に出兵し昭和20年7月末、フィリピン・ルソン島で無念にも戦死し、今でもその命が惜しまれている。